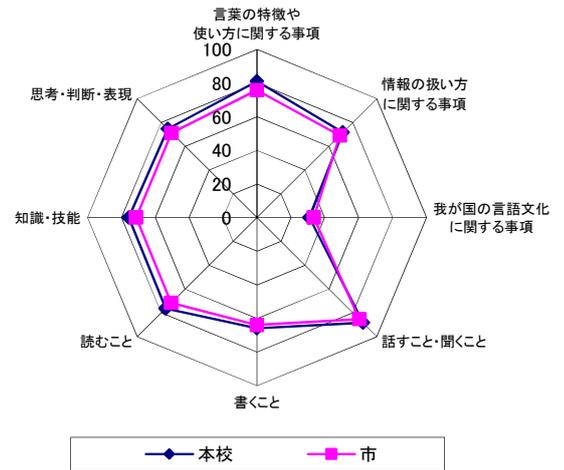


宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	81.1	75.8	77.5
	情報の扱い方に関する事項	71.6	69.1	67.0
	我が国の言語文化に関する事項	30.9	33.5	37.2
	話すこと・聞くこと	88.5	85.5	86.5
	書くこと	65.8	63.9	65.8
	読むこと	76.3	71.6	69.5
観点別	知識・技能	75.6	71.3	72.9
	思考・判断・表現	74.6	71.3	71.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

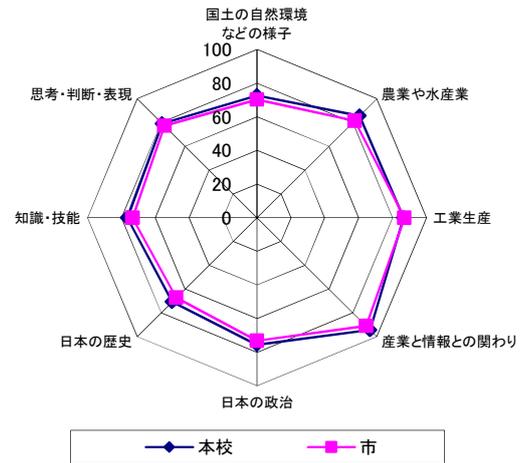
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○校内平均正答率は、市を5.3ポイント上回った。 ○漢字の読み書きに関しては、ほぼ定着している。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きについては、当該学年のものはもちろん、前学年のものも定期的に出題するなどし、引き続き反復練習に取り組む場を設けて、基礎・基本の定着を図っていく。 ・読書や辞書の活用を継続的に行って語彙を増やすとともに、正しい使い方を学んだり、豊かな表現に触れさせたりして、言葉に関する感覚を磨きたい。 ・敬語の使い方については、日々の生活において継続的に指導し、意識の向上を図る。
情報の扱い方に関する事項	○校内平均正答率は、市より2.5ポイント上回った。	・文章や会話の中から必要な情報を読み取る力を高めるための指導に重点を置いた学習活動を多く設ける。 ・文章の内容を図や表を使って整理する学習を積極的に取り入れ、人に分かりやすく伝えることができるようにする。 ・原因と結果など、情報同士の関係に注目して文章を読んだり書いたりすることができるような場を、日常的に設けて指導する。
我が国の言語文化に関する事項	●和語・漢語・外来語についての理解を問う設問の正答率は、市を2.6ポイント下回った。	・和語・漢語・外来語の見分け方をしっかり押さえ、正しく分類できるように練習を重ねるとともに、日頃から漢字の音や訓に着目するよう意識付けをする。
話すこと・聞くこと	○校内平均正答率は、市を3ポイント上回った。 ○自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉える設問では、市を8ポイント上回った。 ●話の内容を捉えているかを問う設問に関しては、市を0.9ポイント下回った。	・話を聞いて分かったことを短い文章にまとめていくなどの活動を取り入れ、自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を的確に捉えられるようにする。 ・話す相手や目的などに応じた話し方ができるよう、例えば、委員会の仕事を全校児童に説明したり、地域の方々への感謝の気持ちを伝えたりするなど、様々な場を設けて指導する。
書くこと	○校内平均正答率は、市より1.9ポイント高い。 ○文章全体の構成や展開を考えているかの設問では、市を4.6ポイント上回った。 ●予想される反論とそれに対する意見を書いているかの設問では、市を5.5ポイント下回っている。	・教材文を通して段落の役割や構成を捉えさせる。 ・日頃から内容に応じて段落を設けて文章を書く場を多く設定する。 ・考えの根拠を明確にするために、ワークシートを工夫して、筋道の通った文章の構成を考えさせる。 ・基本的な文章の型を示すなど、書くことへの抵抗感をなくすとともに、原稿用紙の使い方を復習して、自信をもって書く活動に取り組めるようにする。
読むこと	○校内平均正答率は、市より4.7ポイント高い。 ○物語文において、全体像を具体的に想像する設問では、市を10.1ポイント上回った。 ●登場人物の様子について描写を基に捉えているかの設問に関しては、市を0.9ポイント下回った。	・登場人物の心情や様子が分かる言葉に注目させ、相関図や感情曲線を用いて比較していくことで、その変化を読み取れるようにする。 ・叙述から読み取れることを、日頃の授業において繰り返し指導していく。 ・読書に親しむことにより、読む力の向上を図っていく。

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	72.6	70.3	66.4
	農業や水産業	85.6	81.6	75.3
	工業生産	86.4	87.0	77.7
	産業と情報との関わり	94.4	91.0	81.3
	日本の政治	75.6	73.2	75.3
観点別	日本の歴史	70.8	67.4	68.5
	知識・技能	76.5	73.5	72.5
	思考・判断・表現	79.1	77.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

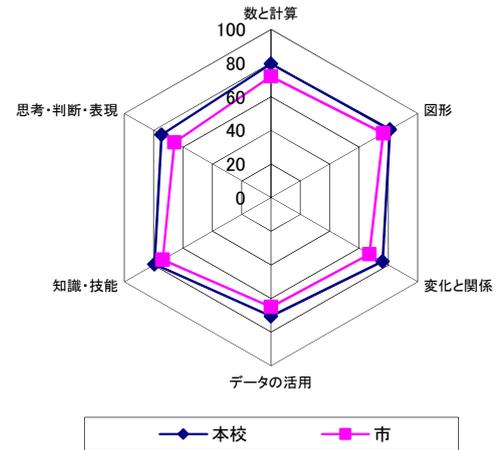
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	○校内平均正答率は72.6%で、市を2.3ポイント上回った。 ●日本の周辺の海洋名について理解しているかを問う問題の校内平均正答率は80.2%で、市の正答率より4.5ポイント下回った。	・選択問題で、日本周辺の海洋名を正確に覚えていない児童が多く、5年時の知識の積み重ねに課題が見られるため、AIDリルを活用したり、家庭学習等での復習を促したりして定着を図っていく。
農業や水産業	○校内平均正答率は85.6%で、市を4ポイント上回った。 ○米の生産が盛んな地域についての理解を基に資料を判断する問題の校内平均正答率は88.9%で、市を5.2ポイント上回った。	・引き続き地域の特産物に興味関心がむくように、普段の授業から関係する内容に触れるようにする。
工業生産	●校内平均正答率は86.4%で、市を0.6ポイント下回った。 ○安全性の高い自動車作りについて、資料をもとに考えている問題の校内平均正答率は93.8%で、市を1.2ポイント下回っているものの、概ね正答できている。 ●日本の貿易の変化について資料をもとに表現する問題の校内平均正答率は75.3%で、市を2.1ポイント下回った。	・資料を関連付けて考えることに課題が見られるため、普段の授業から資料の読み取りを丁寧にを行い、読み取る力の向上を図る。 ・知識の積み重ねに課題が見られるため、学習にAIDリルを効果的に活用し、家庭学習等での復習を促す。
産業と情報との関わり	○校内平均正答率は94.4%で、市を3.4ポイント上回った。 ○近年日本で起きた自然災害の発生場所について理解しているかを問う問題の校内平均正答率は97.7%で、市を1.4ポイント上回った。 ○情報の発信と受信の注意点について考え、空所を埋める選択肢を選ぶ問題の校内平均正答率は73.9%で、市を5.2ポイント上回った。	・学んだことを人に伝える力を養うために、分かったことを整理して、新聞にまとめたり友達の前で発表したりする活動を増やす。
日本の政治	○校内平均正答率は75.6%で、市を2.4ポイント上回った。 ●租税の役割について理解しているかを問う問題の校内平均正答率は63.0%で、市を4ポイント下回っている。	授業以外でもニュースや新聞を話題にし、少しでも社会情勢に興味関心を向けられるようにする。
日本の歴史	○校内平均正答率は70.8%で、市を3.4ポイント上回った。 ○豊臣秀吉の業績(刀狩)のについて理解しているかを問う問題の校内平均正答率は92.6%で、市を11.7ポイント上回っている。 ●能について理解したかを問う問題の校内平均正答率は45.7%で、市を16.4ポイント下回っている。	・教科書の写真資料を丁寧に扱い、資料について話し合うことで理解を深めたり、確実な知識の定着を図ったりする。

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【算数】領域別／観点別校内平均正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	79.6	72.1	74.6
	図形	81.1	76.5	76.1
	変化と関係	76.0	67.1	59.7
	データの活用	70.6	65.0	64.5
観点別	知識・技能	79.4	73.8	74.7
	思考・判断・表現	74.6	65.8	61.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の校内平均正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

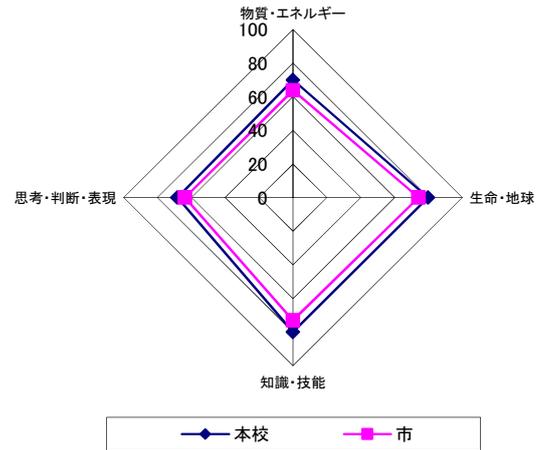
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○数と計算では校内平均正答率が79.6%で、市を7.5ポイント上回った。</p> <p>○少数÷少数の計算をする設問の校内平均正答率は85.2%で、市を15ポイント上回った。</p> <p>○文字を使って、2つの数量の関係を1つの式に表す設問の校内平均正答率は77.8%で、市を12.4ポイント上回った。</p>	<p>・基礎基本の定着は図れているため、より発展的な問題にも取り組み、思考力の向上を目指していく。</p>
図形	<p>○図形では校内平均正答率が81.1%で、市を4.6ポイント上回った。</p> <p>○線対称な図形の対応する点に関する設問の校内平均正答率は67.9%で、市を16.8ポイント上回った。</p> <p>●正多角形の中から点対称な図形を選ぶ設問の校内平均正答率は74.1%で、市を6.1ポイント下回った。</p>	<p>・線対称や点対称な図形の性質を学習する際、自分の考えを説明したり作図したりすることができるような学習を取り入れ、着実な定着を図るようにする。</p>
変化と関係	<p>○変化と関係では校内平均正答率が76.0%で、市を8.9ポイント上回った。</p> <p>○表から車両数と人数の割合を求め、どの線路が最も混んでいるかを考察する設問の校内平均正答率は80.2%で、市を10.8ポイント上回った。</p> <p>○基準量と割合から、比較量を求める設問の校内平均正答率は80.2%で、市を21.5ポイント上回った。</p>	<p>・基礎基本の定着は図れているため、より発展的な問題にも取り組み、思考力の向上を目指していく。</p>
データの活用	<p>○データの活用では校内平均正答率が70.6%で、市を5.6ポイント上回った。</p> <p>○値に0がある分離量の平均を求める設問の校内平均正答率は85.2%で、市を14.2ポイント上回った。</p> <p>●ヒストグラムの特徴をもとに、平均値付近の記録が一番多いわけではないことを説明する設問の校内平均正答率は39.5%で、市を4ポイント上回っているものの課題が見られる。</p>	<p>・平均値、中央値、最頻値の意味を正しく理解させるために、データをもとに特徴を既習表現を使って説明する活動を多く取り入れるようにする。</p>

宇都宮市立横川中央小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	70.0	63.8	61.6
	生命・地球	79.7	74.1	73.3
観点別	知識・技能	79.9	73.0	71.3
	思考・判断・表現	68.2	63.8	62.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○校内平均正答率は70.0%で、市を6.2ポイント上回った。</p> <p>○薄い塩酸と炭酸水を見分ける実験について構想し、説明する設問では、校内平均正答率は60.5%で市を9.2ポイント上回った。</p> <p>●木を缶の中で効率よく燃やす方法を指摘する設問では、校内平均正答率は71.6%で市を2.5ポイント下回った。</p>	<p>・水溶液を見分ける実験について構想し、説明する設問では、結果から考察を記述する活動を重視した成果が出ており、継続していく。</p> <p>・効率よく燃やす方法を指摘する設問では、学習内容を生活体験につなげる活動を増やしていく。</p>
生命・地球	<p>○校内平均正答率は79.7%で、市を5.6ポイント上回った。</p> <p>○流れる水のはたらきについて、予想が正しかった場合に得られる実験の結果を推測する設問では、校内平均正答率は72.8%で市を10.9ポイント上回った。</p> <p>●葉からでんぷんがなくなるのはいつかを考える設問では、校内平均正答率は58%で市を5.8ポイント下回った。</p>	<p>・自分の予想が正しければ、どのような結果になるかを考える活動を継続していく。</p> <p>・葉からでんぷんがなくなるのはいつかを考える設問では、作られたでんぷんが移動することにも目を向けさせる。天候によって実験が難しい場合は映像資料を活用する。</p>

宇都宮市立横川中央小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
各教科における基礎・基本の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> ・話の聞き方や発表の仕方、ノートを取り方など基本的な学習態度や学習習慣を身に付けさせる指導。 ・一人一台端末の計画的・積極的・効果的な活用と工夫・改善。 ・朝の学習における漢字・言葉・計算学習の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数共に、正答率がほとんどの領域で市の平均を上回った。 ・6学年は市の質問紙で「学習の仕方について」の9つの項目すべてにおいて、市の肯定割合を上回った。
自分の思いや考えを表現できるような学習指導の工夫と改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題「『見方・考え方』を働かせ、学び合う児童の育成」のための授業改善。 ・多様な考えに触れ、互いの良さを生かしながら協働して課題解決に取り組めるような学び合いの場の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の問いに対して、4学年は県の肯定割合を若干上回り、5学年は若干下回った。
豊かな心を育む表現力の向上を目指す読書指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全校一斉読書の実施。(月、金曜日) ・チャレンジブックの実施。 ・読書週間の実施。(10月) ・読み聞かせボランティアを活用した読み聞かせの実施。(月1回通年) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校の授業時間以外に、普段どれくらいの時間読書を読みますか。」の問いに対して「10分以上30分より少ない」の割合が一番多く、国の割合を2.3ポイント上回った。 ・「あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。」の問いに対して、「0～10冊」と答えた割合は県を下回り、「26～100冊」と回答した割合は最も高く、40.2%であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・国の調査において、国語では、「話すこと・聞くこと」の本校の平均正答率は70.4%で全国平均や県の平均を上回った。しかし市の調査では、話の内容を捉えているかを問う設問で0.9ポイント下回った。日々の学習において、自分の考えを言語化する活動を取り入れ、理由や根拠を明確にして発表や説明ができるようにしていく。

・県の調査において、4年生国語の「書くこと」の平均正答率が県よりも20.7%下回った。書くことへの抵抗感を軽減するため、自分の考えを言語化する活動を行うなど、「書くことキャンペーン」に取り組んでいく。合わせて、友達の発表を聞く際には、自分の考えと比べたり、新しい気づきを得たりしながら聞くよう助言し、自分の考えの付けたしや、修正ができる力を培っていく。